

尾花沢市議会だより編集委員会報告書

《委員長 鈴木 清》

I 山形県市議会議長会 議会報研修会

1. 実施日 令和2年11月12日（木）
2. 会場 尾花沢市文化体育施設サルナート・コンベンションホール
3. 講師 山形新聞 尾花沢支社長 玉虫秀明
4. 演題 「これからの議会報づくり」
5. 参加者 鈴木清委員長・和田哲副委員長・塩原未知子委員・伊藤浩委員
・菅野喜昭委員・安井一義委員 ・鈴木由美子委員
6. 報告

①県内13市の議会報研修会が13年ぶりに本市が担当となりました。当初銀山温泉を会場にと考えましたが、コロナ禍の中、感染症防止のため、サルナート収容定員1/4＝約90人の議員らが参加。懇親会はなく、研修のみの開催となりました。

②講師の玉虫氏からは「新聞・議会報は生き残れるのか？」の問題提起が冒頭にあり危機感を感じながら拝聴しました。さらに「読者ニーズに応える必要性があること」、「読まれる議会報のために、ページが文字で埋め尽くされないよう、記事をコンパクト化することが大切」などご教示いただきました。

③続いて13市の代表が編集方針やこだわりを発表し、クリニックしていただきました。当市議会106号（表紙は中学校全校18部活の写真とメッセージ）のクリニックは以下のとおりです。

●表紙 新型コロナの影響で、中学総体が中止。くじけない3年生の部活の写真は素晴らしい。

●4～5P コロナ対策について市民の声を集めた記事は、ユニークで意欲が感じられる。

●6P 議会発のコロナ対策の要望書の記事を1P分使うのはもったいない。

●8～15P 一般質問のページは議員と当局の見出しがあり、読みやすい工夫がされている。

II 行政調査

令和3年2月2日山形県川西町議会を調査先として計画していましたが、コロナ感染拡大により中止となりました。